



株式会社セック

*S*ystems *E*ngineering *C*onsultants Co.,LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

銘柄コード:3741

2013年3月期 第2四半期決算 説明資料

2012年11月27日

<目次>

- **事業概要**
- **第2四半期決算概要**
- **通期業績見通し**
- **注力分野の状況**

(オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)

事業概要

QCD & Iをスローガンとするお客様中心ビジネス

「New Element to New System」

New Element による New Systemで不可能を可能に、
それが最高のお客様満足度に、ビジネスの高付加価値化に繋がる






業績のベースを確保する

業績を向上させる



40年の実績のあるリアルタイムソフトウェアビジネス(フロー)と
リアルタイムソリューションビジネス(ストック)の両輪で、ビジネスを拡大する

セックの技術サービス

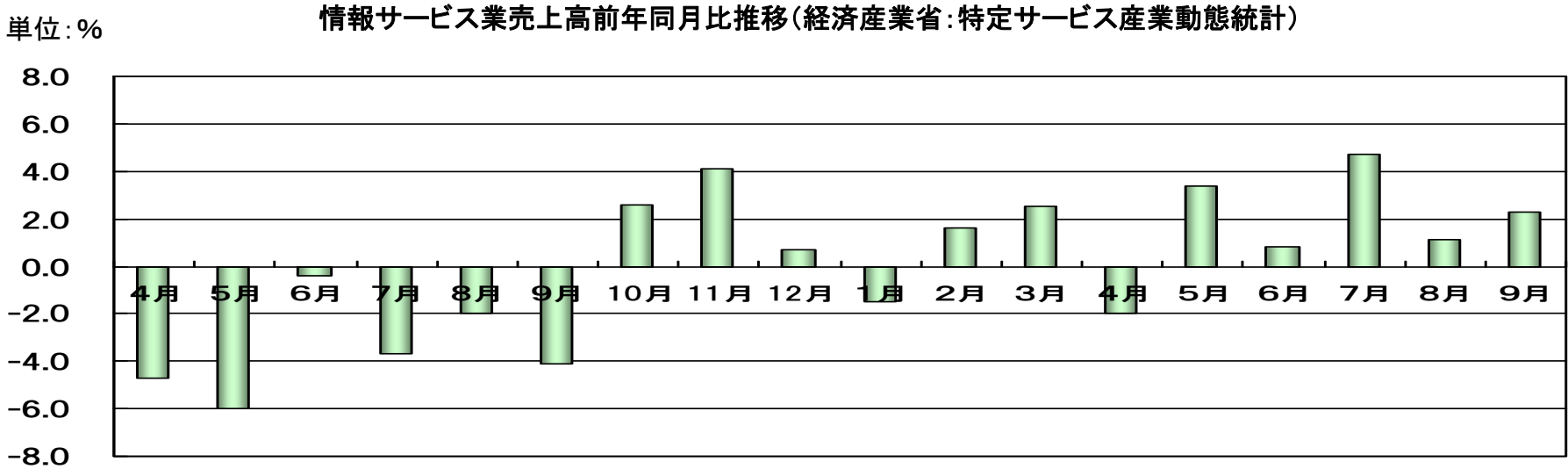
ビジネスフィールド	技術サービス			リアルタイムソリューション
	リアルタイムソフトウェア			
	エンベデッドソフトウェア	コアテクノロジー	技術アプリケーション	
モバイルネットワーク		オープンプラットフォーム技術 携帯電話端末搭載ソフトウェア 国際標準技術	基幹ネットワーク	RealtimePowerシリーズ  機能安全対応 RTミドルウェア RTMSafety  地上デジタル放送用 組込みソフトウェア airCube  位置情報サービス プラットフォーム airLook  SVG製品ファミリー airSmartG  超高速 インメモリXMLデータベース Karearea
ワイヤレス	スマートフォン タブレット	地上デジタル放送技術		
インターネット	非接触型IC 情報家電 車載端末	ベクトル描画技術 XML	Webシステム	
社会基盤システム		位置情報サービス技術	防衛、放送 交通(ITS, 航空) 環境エネルギー	
宇宙先端システム	人工衛星搭載機器 ロボット	ロボットソフトウェア共通化技術	人工衛星 天文	

第2四半期決算概要 (2013年3月期)

事業環境

2013年3月期第2四半期の事業環境

2012年4月から9月までの月別売上高は、5月を除いて前年同月比で増加となっており、IT需要は全体的に回復傾向にある。



- 業界全般
成熟期を迎えているかのように見える市場、クラウドコンピューティングの活用で「持つから使う」への流れ
→労働集約型から知識集約型へ、受託開発からサービス型へ、多重下請け構造から水平分業へ、3つの構造変化
- 当社
スマートフォン端末の開発から、スマートフォンを使った新たなサービスの開発の需要が増加し商談が活発化
また、一般的に需要が回復基調で全BFで商談が増加

2013年3月期第2四半期総括

売上高は第2四半期過去最高、受注高・受注残高も過去最高に

■売上高、利益面ともに計画を上回り、前年同期比で増収増益

- 売上高は、オープンプラットフォーム関連商談を中心に受注が好調で、過去最高
(売上高:計画達成率109%、前年同期比116%)
- 営業利益及び経常利益は、売上高が伸びたことにより、計画を大幅に上回って増益
(営業利益:計画達成率134%、前年同期比176%、経常利益:計画達成率131%、前年同期比134%)

■受注高及び受注残高は計画を上回り、前年同期比でも増加

- 受注高は、オープンプラットフォーム関連を中心に商談が活発で計画を上回り、17億円となって過去最高
(受注高:前年同期比113%)
- 受注残高は、10億を超えて第2四半期末では過去最高
(受注残高:前年同期比130%)

■オープンプラットフォームの好調に加え、全てのBFで受注が増加

- オープンプラットフォームの通信事業者向けアプリケーションやコアテクノロジーサービスが好調
- 非接触型ICのエンベデッドソフトウェアが好調を維持
- 宇宙、防衛分野などの官公庁関連、一部の民間企業のアプリケーションが増加
- ワンセグソリューションのairCube for Androidの販売が好調

第2四半期損益計算書

	2012年3月期 (百万円)	2013年3月期 (百万円)	前期比 (%)	期初予想 (百万円)	計画達成率 (%)
売上高	1,450	1,683	116.1%	1,540	109.3%
売上原価	1,044	1,222	117.0%	1,120	109.1%
売上総利益	405	461	113.6%	422	109.3%
販売管理費	291	260	89.3%	270	96.6%
営業利益 (営業利益率)	114 (7.9%)	200 (11.9%)	175.8%	150 (9.7%)	133.6%
経常利益 (経常利益率)	156 (10.8%)	209 (12.4%)	133.8%	160 (10.4%)	130.8%
当期純利益	88	125	141.1%	90	139.1%

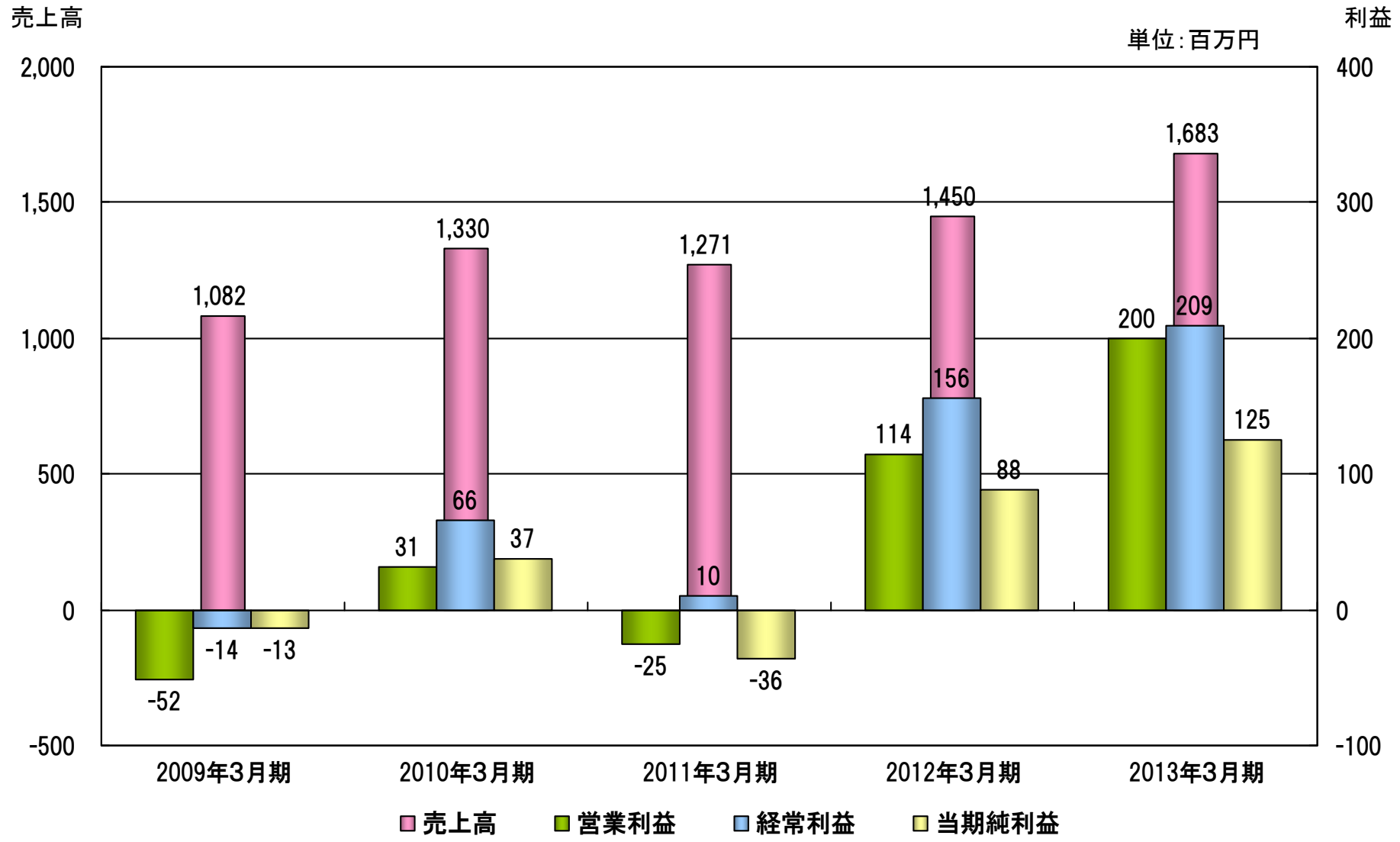
売上原価 外注費(前年同期比31%増)、人件費が増加

販売管理費 研究開発費の減少、研究開発費は10百万円(前年同期比77%減)

営業外損益 研究開発の補助金収入は2百万円(前年同期比94%減)、ロボットは終了し環境エネルギーのみ

特別損失 大阪事業所移転費用など5百万円(前期は投資有価証券評価損3百万円)

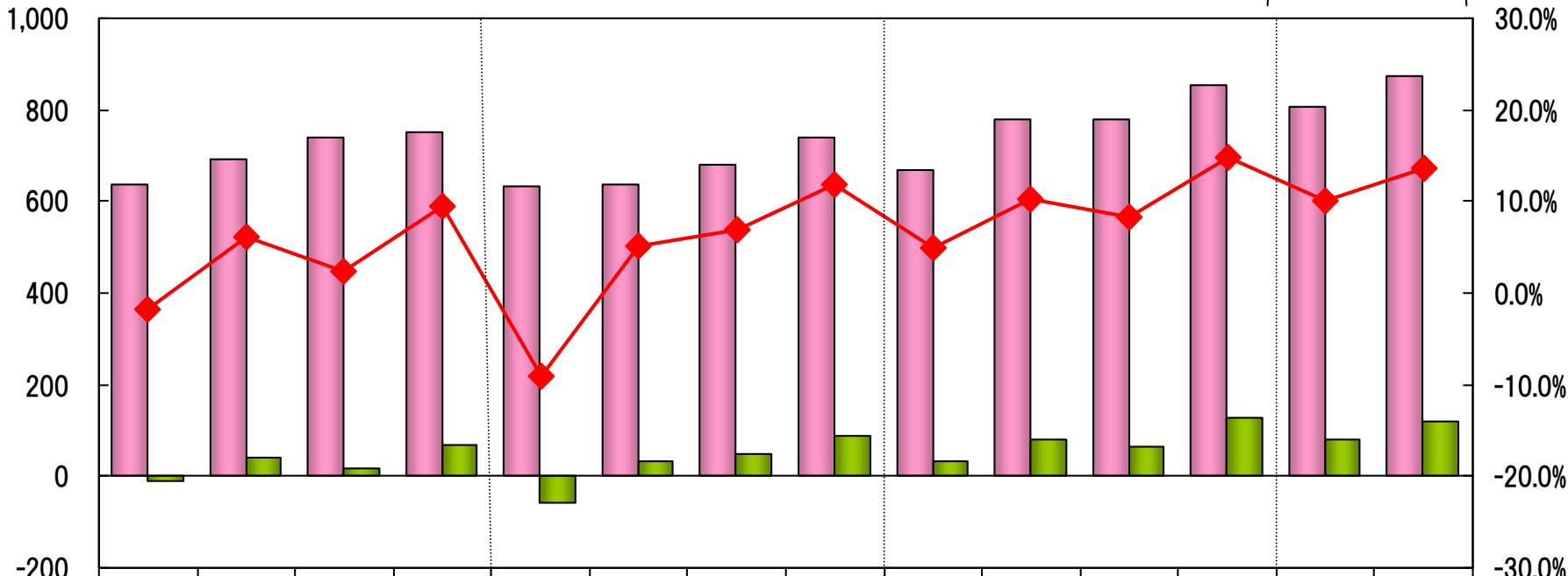
第2四半期決算業績推移



四半期業績推移(PL)

6四半期連続で対前期比増収増益、利益率も安定して推移

単位:百万円



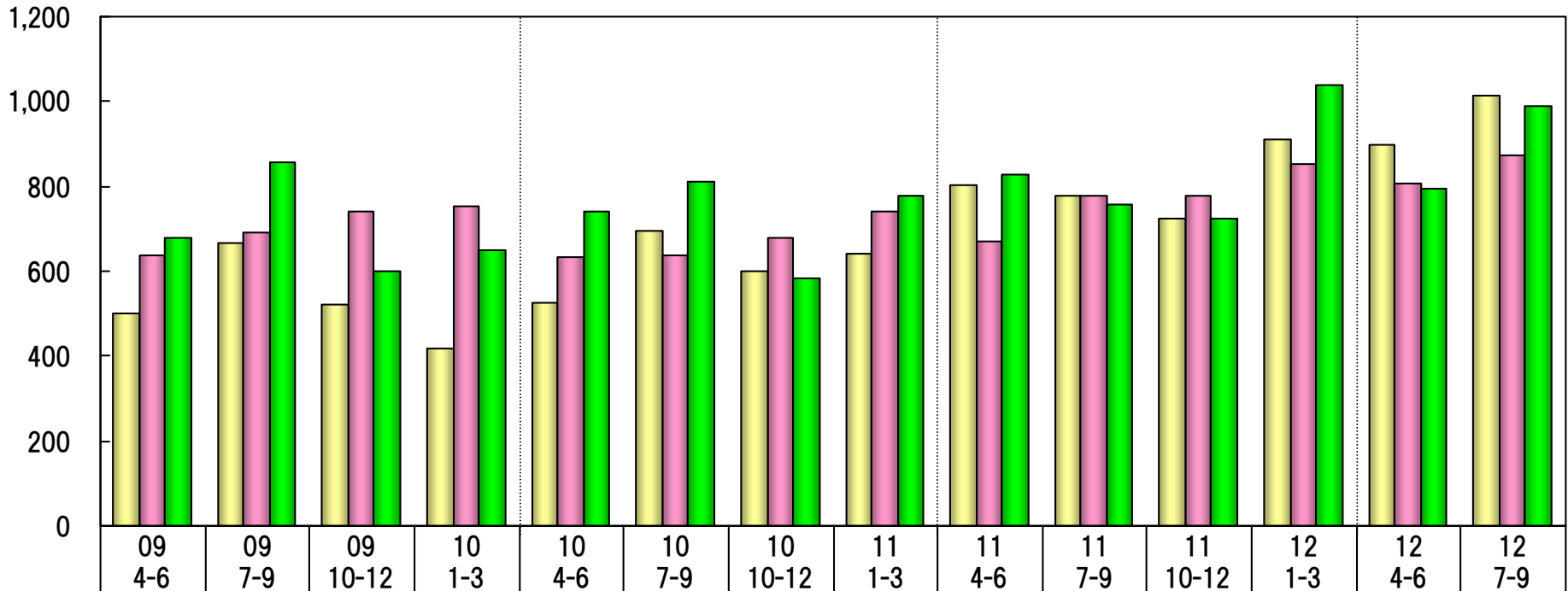
	09 4-6	09 7-9	09 10-12	10 1-3	10 4-6	10 7-9	10 10-12	11 1-3	11 4-6	11 7-9	11 10-12	12 1-3	12 4-6	12 7-9
売上高	638	691	740	753	632	638	680	739	670	779	780	853	807	875
営業利益	-10	42	17	70	-57	32	47	87	33	80	63	126	80	119
営業利益率	-1.7%	6.2%	2.4%	9.4%	-9.1%	5.1%	7.0%	11.8%	5.0%	10.3%	8.2%	14.8%	10.0%	13.6%

■ 売上高 ■ 営業利益 ◆ 営業利益率

四半期業績推移（受注）

受注高は、第1四半期に前期第4四半期の反動が出たものの、第2四半期は好調
 受注残高は、10億を超え、第2四半期末としては過去最高

単位：百万円



■ 受注残高 ■ 売上高 ■ 受注高

第2四半期BF別の状況

オープンプラットフォーム好調を維持、宇宙先端、社会基盤も回復

ビジネスフィールド	2012年3月期		2013年3月期			前年同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	208	14.4	184	10.9	126.9	88.6
ワイヤレス	698	48.2	723	42.9	105.2	103.5
インターネット	229	15.8	305	18.2	117.0	133.2
社会基盤システム	103	7.1	164	9.8	94.3	159.3
宇宙先端システム	120	8.3	159	9.5	109.8	132.4
ソリューション	90	6.2	146	8.7	116.0	161.8
合計	1,450	100.0	1,683	100.0	109.3	116.1

モバイルネットワーク	基幹ネットワークの技術アプリケーションが減少	⇒ 売上高は減少、利益面も減少
ワイヤレス	オープンプラットフォーム化による新たなサービスの開発が増加	⇒ 売上高は増加、利益面は減少
インターネット	非接触型IC関連堅調、民間企業向け技術アプリケーションが増加	⇒ 売上高は増加、利益面も増加
社会基盤システム	官公庁系の技術アプリケーションが回復	⇒ 売上高は増加、利益面も増加
宇宙先端システム	宇宙関連の地上系の技術アプリケーションが回復	⇒ 売上高は増加、利益面も増加
ソリューション	airCube for Androidのロイヤリティ収入の増加	⇒ 売上高は増加、利益面も増加

第2四半期技術サービス別の状況

エンベデッド好調に加え、技術アプリも回復基調に

技術サービス	2012年3月期		2013年3月期		前年 同期比 (%)
	売上高 (百万円)	構成比 (%)	売上高 (百万円)	構成比 (%)	
エンベデッドソフトウェア	764	52.7	816	48.5	106.8
コアテクノロジーサービス	91	6.3	129	7.7	141.9
技術アプリケーション	504	34.8	591	35.1	117.2
ソリューション	90	6.2	146	8.7	161.8
合計	1,450	100.0	1,683	100.0	116.1

- オープンプラットフォーム関連の商談が、新たなサービスを提供するアプリケーションの開発、キャリア向けのサービスなどに広がり、エンベデッドソフトウェア、コアテクノロジーサービス、ソリューションが増加
- 宇宙関連などオープンプラットフォーム以外も回復基調、技術アプリケーションが増加

第2四半期末の受注状況

前期を2億円強上回る受注残高で下期がスタート

ビジネスフィールド	2012年3月期		2013年3月期				受注残高 前期比 (%)
	受注高 (百万円)	受注残高 (百万円)	受注高 (百万円)	計画達成率 (%)	受注残高 (百万円)	計画達成率 (%)	
モバイルネットワーク	145	81	220	145.7	163	122.5	200.7
ワイヤレス	762	206	687	96.3	317	83.6	154.0
インターネット	246	137	249	91.9	125	65.5	91.7
社会基盤システム	152	118	198	109.5	155	121.1	131.1
宇宙先端システム	114	73	210	139.3	112	167.2	153.3
ソリューション	165	163	220	168.1	140	197.0	86.0
合計	1,587	779	1,786	111.6	1,014	104.4	130.1

- 受注高は、計画を大幅に上回り、前年同期比でも198百万円(13%)の増加
- 受注残高は、計画を上回り、前年同期比でも234百万円(30%)の増加
- モバイルネットワーク・ワイヤレス・宇宙先端システム・社会基盤システムの受注残高が前年同期比で大幅増

第2四半期末貸借対照表

単位:百万円

	2012年3月末日	2012年9月末日	増減
流動資産	3, 170	3, 529	359
固定資産	1, 202	888	▲314
流動負債	669	671	2
固定負債	55	61	6
純資産	3, 648	3, 683	35
総資産	4, 373	4, 417	44
自己資本比率	83. 4%	83. 4%	0. 0%
流動比率	473. 7%	525. 2%	51. 5%
固定比率	33. 0%	24. 1%	▲8. 9%

流動資産 主に現金及び預金の増加

固定資産 主に長期預金の減少

流動負債 特別な変動なし

固定負債 特別な変動なし

第2四半期キャッシュ・フロー計算書

単位:百万円

	2012年3月期 第2四半期末	2013年3月期 第2四半期末	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	476	296	▲180
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲78	153	231
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲101	▲76	25
現金及び同等物の増減額	293	372	79
現金及び同等物期末残高	1,946	2,369	423
参考)長期預金	500	300	▲200
参考)現預金+長期預金	2,446	2,669	223

営業キャッシュ・フロー 主に法人税等支払額の増加による支出の増加

投資キャッシュ・フロー 主に長期預金払戻による収入の増加

財務キャッシュ・フロー 配当金支払額の減少による支出の減少

通期業績見通し (2013年3月期)

2013年3月期業績見通し

業績見通しを上方修正

単位:百万円

	2012年3月期 実績	2013年3月期 業績予想	前期比 (%)
売上高	3,084	3,320	107.6
売上原価	2,185	2,400	109.8
売上総利益	899	920	102.3
販売管理費	595	520	87.4
営業利益 (営業利益率)	304 (9.9%)	400 (12.0%)	131.5 (2.1ポイント増)
経常利益	435	450	103.4
当期純利益	242	270	111.1

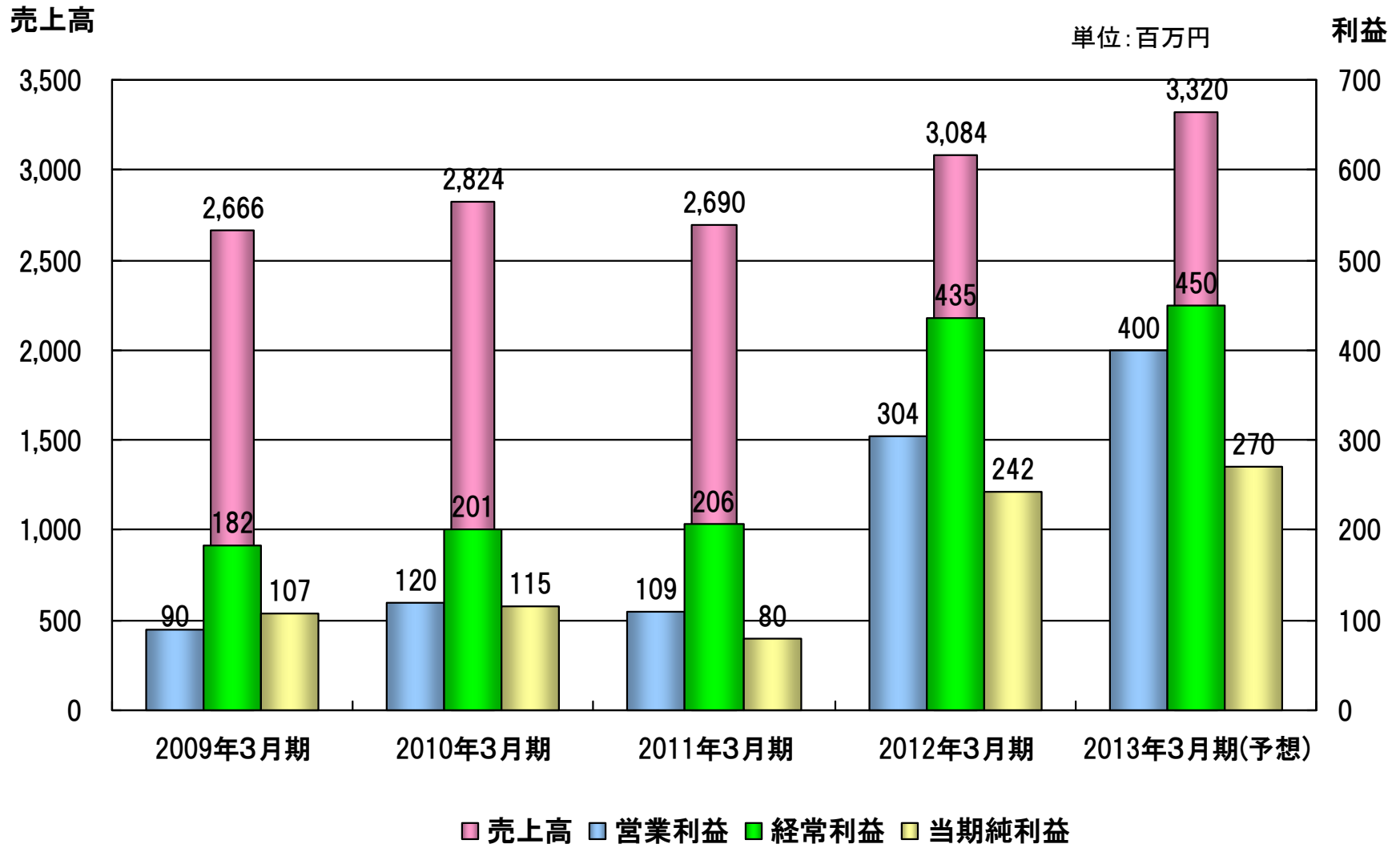
業績見通し達成のポイント

- 継続してオープンプラットフォームの商談を開拓

オープンプラットフォーム関連のアプリ開発、コアテクノロジーサービスの継続、拡大
加えて次のプラットフォームに向けたマーケット開拓、顧客開拓

- 宇宙先端システム、社会基盤システム関連の案件拡大

通期業績の推移



2013年3月期重点テーマ

変化先取りに注力し、技術提案力で顧客基盤のさらなる強化を図る

期初方針	第3四半期以降の方針
<p>他社との差別化を図り、競争優位を確保して受注につなげる: QCD&I</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■技術提案力を主体とした活発な営業活動を継続、新規の商談を開拓し受注につなげる。 ■獲得した商談は、改めてQCD&Iにより、お客様満足度を向上させ、リピート商談につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ■技術提案力での商談獲得、顧客満足度向上による既存顧客の受注増が上期の業績に結びついた。 ■下期も提案を主体に商談開拓を続行する。既存顧客には、新たな提案で顧客満足度を向上させリピート商談につなげる。
<p>成長が期待できる市場に参入する: オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■オープンプラットフォームは、Android関連や電子マネー(NFC含む)、移動体通信事業者向けサービスなどの市場を開拓する。 ■環境エネルギー分野のビジネス化を推進し、復興需要を含めた開発案件の受注を目指す。 ■ロボットは、RTMSafetyで介護や家庭、さらにスマートハウスなどの環境エネルギー市場との連携を視野に市場を開拓する。 	<ul style="list-style-type: none"> ■オープンプラットフォームは、上期は方針どおりに展開し好調であった。下期も積極的に展開する。 ■環境エネルギー分野は、復興需要の遅れなどもあり、大きな進展がない。引き続き開発案件の受注を目指す。 ■ロボットは、RTMSafetyの販売を開始し、適用案件を受注した。下期は適用案件の拡大を図る。
<p>変化先取りに注力: 研究開発と製品開発に積極投資</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ■研究開発は、環境エネルギー中心に取り組む。ロボットの受託研究が終了しビジネス化に取り組むため、研究開発費は減少予定。 ■製品開発は、RTMSafety(機能安全対応RTミドルウェア)を5月初めに発売開始、airCube(地上デジタル放送用組込みソフトウェア)のAndroid版は機能強化中。 	<ul style="list-style-type: none"> ■研究開発は、上期は予定どおりであった。新規テーマを含め、積極的に取り組んでいくが、減少予定には変わらない。 ■製品開発は、予定どおりRTMSafetyを発売。airCubeのAndroid版は機能強化を実施した。下期も機能強化などを予定。

2013年3月期BF別業績見通し

オープンプラットフォームが堅調な見通し

ビジネスフィールド	期初の方針	予想	第2四半期状況判断	予想
モバイルネットワーク	移動体通信事業者向けのオープンプラットフォームに関連するコアテクノロジーサービスと技術アプリケーションが期待できることから、ほぼ横ばい	→	基幹ネットワークの大型案件が終了したため減少したが、受注残高は前年同期末の2倍となっている。下期は、オープンプラットフォーム関連を中心に受注を拡大する。	↗
ワイヤレス	Androidを搭載したスマートフォンやタブレットのエンベデッドソフトウェアが好調を維持し、拡大	↗	オープンプラットフォーム関連が好調を維持し、増加した。下期は、これに加えて、新しいプラットフォーム、顧客の開拓を目指す。	↗
インターネット	非接触型ICのエンベデッドソフトウェアは堅調だが、民間設備投資の回復が不透明なことから、ほぼ横ばい	→	非接触型ICのエンベデッドソフトウェアの堅調に加え、設備投資需要が回復し、予想を上回る増加となった。下期は、引き続き、需要の開拓に努める。	→
社会基盤システム	復興需要を含めた環境エネルギー分野と官公庁の入札案件などが期待できることから、拡大	↗	官公庁系の技術アプリケーションが復調し、増加した。下期も受注拡大に努める。	↗
宇宙先端システム	衛星搭載エンベデッドソフトウェア、国の研究機関の受注も前期並みで、ほぼ横ばい	→	宇宙関連の技術アプリケーションが復調し、予想を上回る増加となった。下期は宇宙関連の受注拡大に努める。	↗
ソリューション	Android版地上デジタル放送製品を中心に販売を強化し、拡大	↗	製品販売で成果が出ており、予想を上回った。受注残も豊富で、前期を上回る見込み。	↗

注力分野の状況

(オープンプラットフォーム、環境エネルギー、ロボット)

オープンプラットフォーム

新技術への対応を加速し、引き続きマーケット拡大

状況

- ・ 2008年よりAndroidスマートフォン向けマーケットを開拓。約6割の社員がAndroid技術に対応可能
- ・ Androidスマートフォン向けソフトウェア開発を推進、特に日本国内仕様への対応(オープンプラットフォームにガラパゴスを)にフォーカスしマーケットを拡大
- ・ アプリからミドルまでトータルなAndroid向け統合ワンセグソリューションairCube for Androidを開発しソリューションビジネスを拡大

実績 (2013年3月期第2四半期 売上高約10億円)

- ・ 大規模なAndroidスマートフォン、タブレット向けソフトウェア開発
日本国内仕様への対応(ワンセグ、電子マネー、MM放送)やマルチメディア、DLNA、NFC、カメラ機能などの開発
- ・ ワンセグソリューションの販売、Androidスマートフォンやタブレットメーカー(5社)と契約
- ・ 通信キャリアや携帯メーカーのスマートフォンを使用した独自サービスのクライアント・サーバの開発
- ・ Androidに関する知識と実績を活かし、通信キャリア向けコアテクノロジーサービスの受注



今後の方針(新技術への対応を加速しマーケットを拡大)

- ・ 電子マネー・MM放送・NFCなど需要が期待でき、競争優位が確保できる技術のソフトウェアの受注推進
- ・ ワンセグソリューションairCube for Androidの機能拡張と販売推進
- ・ コスト競争力を強め、海外メーカーの開拓
- ・ 次の成長に向けて新しいオープンなプラットフォームへの対応

防災・復興などを含め、他社と共同ビジネスを推進

状況

- ・ 2008年度に急速充電器遠隔監視制御システム(G-EV)を開発。環境エネルギー分野への取組み開始
- ・ 2009年度にKDDIと共同で「スマート充電システム」を開発、共同特許出願申請。地方自治体などへ販売実績
- ・ 2010年度にNEDOの「蓄電複合システム化技術開発」共同研究委託先に選定され、デンソー、豊田通商と共に商用施設用蓄電池付BEMS(Building and Energy Management System)の研究開発と実証検証に参画(経済産業省補助事業として継続中)

実績 (2013年3月期第2四半期 研究補助金約2百万円、売上高約17百万円)

- ・ 港湾地域を対象とした地盤の液状化判定ならびに側方流動化予測を行うシステムの開発
→早稲田大学
- ・ 地方都市防災計画(シミュレーション)
- ・ 国内スマートシティ事業での環境案件の受託→豊田市HEMS案件、北九州市BEMS案件
- ・ 急速充電器遠隔監視制御システム「G-EV」保守運用→東京電力
- ・ 「蓄電複合システム化技術開発」の豊田市実証グループに参画
→ビル機器・設備等の運転管理によるエネルギー消費量の「見える化」エンジン開発、エネルギー需要予測エンジン、太陽光パネル発電予測エンジン等の予測エンジンの開発と電力制御(ピークカット)の検討、豊田市にて実際のサービス運営を実施し、ビジネスモデル、マーケットを検討予定



今後の方針

- ・ 商用施設でのBEMSのビジネス化を推進(デンソー、豊田通商、KDDI、トヨタ自動車とのアライアンス)
- ・ 環境エネルギー関連の受託開発
- ・ 防災・復興など範囲を広げてビジネスを推進

ユビキタス社会の究極の端末はロボット

状況

- ・ 2003年からロボットに取り組み、ロボット関連技術を持つ数少ないソフトウェアベンダーで先行優位
- ・ 2005年からNEDOからの受託研究を開始、2012年に「次世代ロボット知能化技術開発プロジェクト」成果公開
- ・ 国際標準仕様RTC(Robot Technology Component)準拠のRTミドルウェアをコアテクノロジーとしてビジネス化を推進
- ・ 機能安全対応RTミドルウェアRTMSafetyについてIEC61508の認証を取得、2012年5月販売開始

実績 (2013年3月期第2四半期 売上高約41百万円)

- ・ 機能安全対応RTミドルウェア RTMSafety 適用案件の開発
- ・ 開発案件
 - ・ 宇宙ロボットミドルウェアの研究開発(JAXA)
 - ・ 危険作業用ロボット遠隔操作ソフトウェアの開発
 - ・ ロボットメーカ、住宅メーカ、大学からの受託開発
- ・ 論文発表・展示会出展他
 - ・ RTミドルウェア関連の研究成果の展示、RTMSafetyについての講演
 - ・ ロボコンマガジンにRTM on Android記事執筆、日本ロボット学会等にて論文発表

今後の方針

- ・ 機能安全対応RTミドルウェア RTMSafetyを販売し、ビジネス化を推進
- ・ サービスロボットや実用ロボットの受託開発を推進



配当の方針

■ 配当の方針

- 原則として安定的に配当する部分と所定の配当性向とを勘案して毎期決定する。配当性向は、当面30%を目指す。
- 安定的に配当する部分は、1株当たり30円とする。

この資料についてのご注意

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、戦略、将来の業績に関する見通しなどが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことにより生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

ありがとうございました

ユビキタス社会の安全と発展のために

“ Realtime@net ”

本資料に関するお問い合わせ

株式会社セック IR室

電話 03-5491-4770